

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名 : クリアピラーK
推奨用途 : 塗膜剥離剤
会社名 : クリアライト工業株式会社
住所 : 岐阜県関市山田1539-3
電話番号 : 0575-27-3051
FAX 番号 : 0575-27-3053
担当部署 : 技術部
緊急連絡先電話番号 : 0575-27-3051
製品番号 (SDS番号) : No. 96-13
作成年月日 : 2019年2月26日 改訂年月日 : 2020年11月6日

2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性 (経口)	: 区分 4
急性毒性 (経皮)	: 区分 5 【国連GHS分類】
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	: 区分 2A
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分 1 (中枢神経系、腎臓) 区分 3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 区分 1 (中枢神経系)

(注) 記載なきGHS分類区分 : 該当せず / 分類対象外 / 区分外 / 分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

- ・飲み込むと有害
- ・皮膚に接触すると有害のおそれ
- ・強い眼刺激
- ・眠気又はめまいのおそれ
- ・中枢神経系、腎臓の障害
- ・長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系の障害

注意書き

安全対策

- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
- ・取扱い後は手、顔等をよく洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

- ・飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・口をすすぐこと。
- ・皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹼）で洗うこと。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
- ・気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・気分が悪いときは医師の診察／手当てを受けること。

保管

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・直射日光を避け、冷暗所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。

廃棄

- ・内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

含有成分及び含有量

成分名	含有量 (wt %)	CAS No.	化審法 No.	安衛法 No.
ベンジルアルコール	65 - 75	100-51-6	3-1011	—
増粘剤	0.5 - 10	非公開	非公開	—
乾燥防止剤	1 未満	非公開	非公開	—
水	残量	7732-18-5	—	—

4. 応急措置

飲み込んだ場合

- ・口をすすぐこと。
- ・気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

- ・多量の水／石けん（鹼）で洗うこと。
- ・気分が悪いときは医師に連絡すること。

吸入した場合

- ・空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分が悪いときは医師に連絡すること。

眼に入った場合

- ・水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

- ・経口摂取：腹痛、下痢、嗜眠、吐き気、嘔吐
- ・皮膚：発赤
- ・吸入：咳、めまい、頭痛
- ・眼：充血

応急措置をする者の保護

- ・適切な保護具を着用すること。

医師に対する特別な注意事項

- ・情報なし

5. 火災時の措置

本製品は消防法上の非危険物に該当しますが、加熱等により水分が蒸発した場合は引火する可能性があります。

適切な消火剤

- ・粉末消火薬剤、AFFF（水性膜泡消火薬剤）、泡消火薬剤、二酸化炭素

使ってはならない消火剤

- ・棒状注水

特有の消火方法

- ・安全に対処できるなら着火源を除去すること。
- ・危険を避けられれば燃焼源の供給を止めること。
- ・安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護すること。
- ・消火作業は風上から行い、有毒なガスの吸入を避けること。

消火を行う者の保護

- ・消火作業の際は、適切な自給式の呼吸用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

- ・関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

- ・周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- ・漏れた製品やこぼれた製品を、密閉式の容器にできる限り集める。
- ・残留製品を、砂又は不活性吸収剤に吸収させる。
- ・個人用保護具：空气中濃度に応じた有機ガス及び蒸気用フィルター付マスク

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用すること。

安全取扱い注意事項

- ・裸火禁止。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

衛生対策

- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・取扱い後は手、顔等をよく洗うこと。

保管

安全な保管条件

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・直射日光を避け、冷暗所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 未設定

許容濃度

日本産衛学会（2019年度版） 25 mg/m³ (最大許容濃度) (暫定) (ベンジルアルコール)

ACGIH（2019年版） 未設定

設備対策

- ・屋内や密閉空間で作業する場合は、換気装置、排気装置を設置すること。
- ・取り扱いの場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設けること。

保護具

呼吸用保護具

- ・本製品（剥離剤）の吹き付け等を行う作業者は、防爆構造の送気マスクを着用すること。
- ・本製品（剥離剤）吹き付け後に、塗膜をかき落とす作業を行う場合は、防爆構造の送気マスク又は防じん機能を有する防毒マスク（有機ガス用防毒マスクの型式検定合格品）を着用すること。なお、防毒マスクは吸収缶が破過すると除毒能力がなくなるため、使用時間を厳格に管理し、定期的に吸収缶を交換すること。

手の保護具

- ・不浸透性の保護手袋を着用すること。

眼の保護具

- ・保護眼鏡／保護面を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

- ・不浸透性の保護衣及び保護長靴を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态

形状	: 粘稠液体
色	: 白～淡黄色
臭い	: 僅かな溶剤臭
pH	: 適用外（水分散液：中性）

物理的状态が変化する特定の温度／温度範囲

初留点／沸点	: データなし
引火点	: なし
自然発火温度	: データなし
比重	: 1.00-1.05 (20℃)
溶解度（水に対する溶解度）	: 適用外

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

- ・通常の保管及び取扱いにおいては安定である。

危険有害反応可能性

- ・加熱等により水分が蒸発した場合は引火の可能性がある。

危険有害な分解生成物

- ・燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素が発生する。

1 1. 有害性情報

急性毒性

経口：区分 4

300 mg/kg < ATEmix ≤ 2000 mg/kg に基づいて区分 4とした。

経皮：区分 5

2000 mg/kg < ATEmix ≤ 5000 mg/kg であり、対象国（日本）危険有害性区分補正処理により区分 5から区分外となるが、国連GHS分類を採用し区分 5とした。

吸入（ガス）：分類対象外

吸入（蒸気）：分類できない

吸入（粉じん及びミスト）：区分外

皮膚腐食性及び皮膚刺激性：区分 2

区分2の成分合計濃度が濃度限界（10 %）以上のため区分 2とした。

眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性：区分 2A

区分2の成分合計濃度が濃度限界（10 %）以上のため区分 2Aとした。

呼吸器感作性：分類できない

皮膚感作性：分類できない

生殖細胞変異原性：分類できない

発がん性：分類できない

生殖毒性：分類できない

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 1（中枢神経系、腎臓）
：区分 3（麻酔作用）

区分 1（中枢神経系、腎臓）の成分合計濃度が濃度限界（10 %）以上のため区分 1（中枢神経系、腎臓）とした。

区分 3（麻酔作用）の成分合計濃度が濃度限界（20 %）以上のため区分 3（麻酔作用）とした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分 1（中枢神経系）

区分 1（中枢神経系）の成分合計濃度が濃度限界（10 %）以上のため区分 1（中枢神経系）とした。

誤えん有害性：分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性（急性）：区分外

水生環境有害性（長期間）：区分外

残留性・分解性

平均生分解度：83 %（基準値：60 %以上）

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・内容物の廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- ・産業廃棄物処理業の許可を持っている処理業者に処理を委託すること。

汚染容器及び包装

- ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分すること。
-

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	該当しない
国連品名	該当しない
国連危険有害性クラス	該当しない

国内規制

海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない
陸上規制情報	該当しない

その他（一般的）注意

- ・直射日光、雨にばく露されないように運搬すること。
 - ・輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
-

1 5. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法	: 該当しない
労働安全衛生法	
特定化学物質障害予防規則	: 該当しない
有機溶剤中毒予防規則	: 該当しない
名称等を表示すべき危険物及び有害物	: 該当しない
名称等を通知すべき危険物及び有害物	: 該当しない
化学物質管理促進法（P R T R法）	: 該当しない
消防法	: 該当しない

1 6. その他の情報

参考文献

- ・化学物質総合情報提供システム（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）
- ・原料のSDS

責任の限定について

- ・本記載内容は、現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。また、注意事項は通常取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合

合には十分な安全対策を実施の上でご利用してください。ここに記載したGHS分類区分の算出根拠は、現時点における日本公表データです。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。